

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	「こころの花」療育園おきなわ豊見城			
○保護者評価実施期間	2026年 8月 10日 ～ 2026年 8月 24日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2026年 8月 10日 ～ 2026年 8月 21日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 8月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま一人ひとりと丁寧に向き合うため、7時間の支援時間を確保しています。 個々の発達状況や特性に応じた療育を実施し、表面的な「できない」という結果だけではなく、「なぜできないのか」「どこでつまづいているのか」を分析し、根本的な発達要因に着目した支援を行っています。	・十分な支援時間を活用し、子どもの行動や発達の背景を丁寧に観察・分析しています。 ・「できる・できない」の評価だけで終わらず、身体・感覚・認知・情緒など多面的な視点から発達を捉えて支援内容を組み立てています。 ・お子さま一人ひとりの発達段階や特性に合わせて療育内容を調整し、個別最適な支援を心掛けています。	・根本的な発達要因をより的確に把握できるよう、職員間でのケース検討やアセスメント力の向上に継続して取り組みます。 ・保護者との情報共有を充実させ、家庭と事業所が共通理解のもとで一貫した支援を行える体制を強化します。 ・支援の効果を定期的に振り返り、一人ひとりの成長に応じた療育内容の見直しを継続し、より質の高い支援の提供を目指します。
2	お子さまの困りごとに対応するだけでなく、幼児期に必要な「生きる力の土台」を育むことを大切にしています。	幼児期に身につけたい「生きる力の土台」として、①人と関わる力、②自分でやってみる力、③気持ちを整える力、④学ぶ力、⑤身の回りのことを自分でする力、⑥丈夫な体をつくる力を大切にしています。そして、⑦自分を大切に思える心(自己肯定感)を培いながら、お子さま一人ひとりが自分の力を信じ、将来、自分らしく社会の中で生きていける力へとつながる療育を目指しています。	・7つの力がそれぞれ独立したものではなく、互いにつながり合いながら育っていくことを意識し、将来の「自分らしく生きる力」につながる療育を深められるよう職員の学びや専門性を高める機会を充実させる。 ・一人ひとりのお子さまの発達をより多角的に捉えられるよう、職員の専門性向上やアセスメント力の強化に取り組みます。 ・保護者や関係機関との連携をさらに深め、家庭生活や就園・就学を見据えた切れ目のない支援体制の充実を図るとともに、「生きる力の土台」を育む療育の質の向上に努めています。
3	保護者との丁寧なコミュニケーションを心がけています。 保護者が感じている子育ての悩みや困りごと、子どもの成長への思いを受け止め、事業所での子どもの様子や支援内容を共有しながら、保護者が安心して子育てに向き合えるよう支援することを大切にしています。	日々の送迎時や連絡帳、面談等を活用し、家庭での子どもの様子や保護者の気持ちを丁寧に伺うとともに、事業所での子どもの様子や成長、支援の中で大切にしていることを分かりやすく伝えるよう心がけています。また、保護者からの相談や困りごとについては、必要に応じて具体的な関わり方や対応について一緒に考え、家庭での子どもとの関わりに活かしていただけるよう、個々の状況に応じた情報提供や助言を行っています。	・保護者が子どもの発達や特性、家庭での関わり方について学ぶことができる機会や情報提供の充実を図っていきます。 ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや保護者向け研修についても情報収集を行い、事業所での実施や外部の研修・支援機関の情報提供等、実施可能な方法を検討していきます。 ・保護者の思いや困りごとをより丁寧に把握し、家庭と事業所が一緒に子どもの成長を支えていけるよう、家族支援のさらなる充実に取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や関係機関への事業所の周知や連携体制について、さらに充実を図る必要があります。	・地域の保育園・幼稚園、相談支援事業所等との連携をさらに深め、事業所の支援方針や療育内容を知っていただく機会を継続的に設けていく必要があることが要因として考えられる。	・保育園・幼稚園・相談支援事業所等への訪問や情報発信を継続し、事業所の療育内容や支援方針について理解を深めてもらう機会を増やす。 ・関係機関からの相談や情報共有を積極的に受け入れ、地域の中で子どもの成長を支える連携体制の構築を進めていく。
2	保護者支援について、日々の情報共有に加え、保護者同士が交流し学び合える機会をさらに充実させる必要があります。	・保護者交流会等の機会は設けているが、参加人数に限られるなど、保護者同士の交流や学びの場として十分な活用につながっていない点が課題である。保護者の就労状況や家庭環境、日々の生活スケジュール等により、交流会へ参加する時間の確保が難しいことが考えられる。 ・交流会の目的や参加することで得られるメリットについて、保護者へ十分に伝えきれていなかったことや、保護者が参加しやすい内容・時間設定について、さらに検討する必要がある。	・保護者のニーズを把握するためのアンケート等を活用し、開催時間や内容、形式を工夫する。 ・交流会だけでなく、短時間で参加できる相談会や勉強会など保護者が参加しやすい機会を計画的に設け、家庭支援のさらなる充実につなげていく。
3	子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた療育を実践しているが、職員それぞれの経験や専門的視点を支援方法に反映する際、アセスメントの視点や関わり方について、さらに職員間で共有・統一していく必要があります。	・職員の経験や専門分野が異なるため、子どもの捉え方や支援方法について、それぞれの視点が生かされる一方で、共通した支援方針として整理・共有する機会をより充実させる必要がある。 ・支援の目的に沿ったアセスメントについて、職員間で共通した視点や内容を持ち、子どもの発達や行動を多角的に捉えるための取り組みをさらに充実させる必要があることが、課題の要因の一つとして考えられる。	・定期的なケース検討会や支援会議を実施し、子どもの姿や支援方法について職員間で共有する機会を増やす。 ・園内研修や外部研修への参加を継続し、発達支援に関する知識や専門性の向上を図るとともに、学んだ内容を職員間で共有し、事業所全体の支援の質の向上につなげていく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				回収数 8 名	
		2026年 8月 31日				/11名中	
		利用児童数					
		2026年 8月 25日					
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8				土曜日等によくイベントを開催してくれていて、通所している子以外にも関わっています。	お子さまと保護者さまが一緒に楽しめる企画を今後も継続してまいります。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8					
保護者 への 説明等	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	8				1人の職員に伝えた健康状態も、他の職員の方へしっかり伝えて下さっているので安心できています。	今後も職員間で丁寧な情報共有を行い、安心してご利用いただける支援を心がけてまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7			1	イベントをたくさん開催してくれています。	今後もお子さまたちが楽しみながら様々な経験ができるよう、季節や発達に合わせたイベントを大切にしていまいります。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時 等の 対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7			1		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8					
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8					
満足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	8				玄関で子どもとバイバイする時、ママそっけのけですぐに中へ入っていきます。	お子さまが安心して楽しみに通っていることを嬉しく思います。今後も「行きたい！」と思ってもらえるような楽しい環境づくりを大切にしていまいります。
	29 事業所の支援に満足していますか。	8				まだ話せない子ですが、イイイヤすることもなく楽しんで通っています。自宅ではできないトレーニングや貴重な経験をたくさんさせていただき、我が子の成長が実感できています。	お子さまが楽しんで通ってくださり、成長を感じていただけていることを大変嬉しく思います。これから一人ひとりの「やってみたい」を大切に、さまざまな経験を通して成長を支えてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援「こころの花」療育園おきなわ豊見城		2026年 8月 31日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		身体の発達状況に応じて、サークルを設置し安全面を配慮して活動を展開している。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		状況や状態に合わせ職員配置を随時行っている。必要に応じて個別に対応を行う。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		バリアフリー構造。写真やイラストを使用して視覚化して対応することで情報伝達をする。用途に応じて仕切りを行う。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		就寝と部屋の使用方法を変えて日々過ごす。子どもたちと毎日掃除・消毒をする。集団広々とした空間で部屋を活用し集団・個別支援を展開している。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		状況や状態に合わせ随時行っている。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1		具体的な支援方法・情報共有等、細かい内容について話し合う時間が必要。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		前回の評価表の結果より、保護者の要望に応えられるよう改善を実施している。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		支援方法の目的、内容が合っていたか、添っていたかを確認するようにしている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		現時点では第三者による外部評価の実施には至っていない。今後は外部の専門機関や有識者から助言を受ける機会を設け、支援の質の向上や事業所運営の改善につなげていく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		希望の研修がある場合受講できるよう調整している。事業内でも研修を実施している。		
源	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPで公表を済ませている。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		子どもの発達状況や特性、生活面等についてアセスメントを行い、本人・保護者のニーズや課題を把握・分析した上で、職員間で共有し、一人ひとりの状況に応じた児童発達支援計画を作成している。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		児童発達支援管理責任者と支援に関わる職員が、日々の支援状況や子どもの様子を共有し、共通理解のもとで、本人・保護者の意向や発達・特性を踏まえ、子どもの最善の利益を考慮して児童発達支援計画を作成している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員間で共有・確認し、子どもの状況に応じた具体的な支援方法や対応について継続的に話し合っている。職員間で共通理解を図り、計画に沿った支援を実践できるよう努めている。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	インフォーマルなアセスメント（普段の療育の中で、子どもの様子を観察して確認）を丁寧に行っている。日々の行動観察や保護者からの聞き取り、支援記録等を通して子どもの適応行動を把握している。	標準化された評価ツールは使っていない。必要に応じて適切なアセスメントツールを活用し、支援の質の向上につなげていく。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		発達内容に沿った内容と5領域を複合して記載している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		チームで日々工夫し、子どもたちが楽しく活動参加が出来るよう努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		マンネリしないよう月間プログラムを作成し活動を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		様々なシチュエーションを設定し、一人ひとりの発達状況に応じて設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝礼で支援内容を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		4		時間を十分にとることが難しく改善が必要。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援内容や子どもの様子について記録を残すことを大切にし、職員間で共有・振り返りを行いながら、支援の検証や改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的なモニタリングを通して、子どもの成長や変化を丁寧に確認することを大切にしている。日々の支援記録や保護者からの情報も踏まえ、必要に応じて計画を見直し、より適切な支援につなげられるよう工夫している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児童発達支援管理責任者が必ず参加し、子どもの状況や支援の経過等を共有している。関係機関と共通理解を図り、連携した支援につなげることを大切にしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		保育の関係機関と必要に応じて情報共有を行い、連携した支援に努めている。自治体の子ども家庭センター等とも情報共有を行い、関係機関との共通理解を図りながら支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		子どもたちの通園先と日頃から情報共有を行うことを大切にし、支援内容や子どもの様子について相互理解を図っている。通園先と連携しながら、子どもの生活全体を支える支援につなげられるよう努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4		現時点では事例がない。今後、就学に向けた支援が必要となった際には、保護者や就学先と連携し、必要な情報共有と相互理解を図りながら、円滑な移行を支援していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4			機会を設けられておらず、関係づくりを進める・必要時に相談・助言を受けられる体制に整えていく必要がある。

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4			地域交流について、参加の呼びかけを行ったが、先方の都合等により実施には至らなかった。今後も地域の関係機関とのつながりを大切にし、無理のない形で交流や他児と活動する機会を設けられるよう働きかけていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		保護者へ連絡帳・対面・電話・SNS等活用して日々お子さまの様子を案内している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	保護者へ相談や情報共有を通して、子どもの発達や家庭での関わり方について必要な情報提供や助言を行っている。保護者の悩みやニーズに寄り添い、家庭での支援につながるよう工夫している。	家族支援プログラムや保護者向け研修については、現時点では実施できていない。今後、保護者のニーズを把握しながら、子どもへの関わり方や発達について学べる機会を設けられるよう検討していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。			契約時に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について保護者に分かりやすく説明し、内容を理解していただいた上で利用開始となるよう丁寧な対応を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。			設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。			同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。			保護者から気になる点を伺ったり、相談がないか確認して随時対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			保護者会・交流会としてイベントを実施。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。			随時実施している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。			インスタで日々の活動内容を情報公開・お知らせを公開し活用している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。			SNSなどでの情報公開では職員間でのダブルチェックを行っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			子どもの発達や特性に応じて、言葉だけでなく身振りや視覚的な情報等を活用し、意思疎通を図っている。保護者に対しても、連絡帳や送迎時等を活用し、子どもの様子や支援内容を分かりやすく伝えるよう配慮している。	
非常時等の	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			地域のご家庭の方が参加できるイベントを開催し、地域交流を実施している。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	各種マニュアルを整備し、日々の支援における安全確保を意識して取り組んでいる。	各種マニュアルは整備しているが、家族等への周知や訓練の実施については、さらなる充実が必要である。今後、マニュアルの内容を職員・保護者に分かりやすく周知し、緊急時を想定した訓練を計画的に実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。			実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。			契約時に確認している。体調不良になった際は保護者から説明を受け服薬を行う場合がある。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	契約時に保護者からアセスメントをとり、職員間で把握する。	現在、医師の指示書に基づく対応が必要な食物アレルギーのある利用児はない。利用開始時に保護者からアレルギー等の状況を確認し、該当するケースが生じた際には、医師の指示書に基づき適切に対応する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		各研修・必須防災訓練等を行っている。	

対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		安全計画を策定し、職員間で共有しているが、家族等への周知が十分ではない。今後は、避難方法や緊急時の対応、安全対策等について保護者へ分かりやすく情報提供し、事業所と家族が連携して子どもの安全確保に取り組めるよう努める。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。			毎日ヒヤリハットの報告を実施し、事故・怪我防止になるよう安全面の確保を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。			研修を行い実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	1	対象児がいない。	現在、身体拘束の対象となる利用児はいない。今後、必要なケースが生じた場合に適切に対応できるよう、実施の判断基準や手続き等について職員間で共有し、適切な対応体制を整えていく。